Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-05-24

第4章　地域歴史遺産を活用できる人材の育成

井上，舞
市澤，哲
加藤，明恵
横山，朋子

(Citation)
歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業,19（2020（令和2）年度事業報告書）:45-47

(Issue Date)
2021-03-22

(Resource Type)
report part

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81013431

第4章
地域歴史遺産を活用できる人材の育成

地域歴史遺産の活用をはかるリーダー養成教育プログラム

人文学研究科地域連携センターでは、2004年度から2006年度まで、工学部建築学科などと協力しつつ、文部科学省の支援をうけ、「地域歴史遺産を活用できる地域リーダー」の育成を目的とする学生教育プログラムの開発に取り組んできた（文部科学省・現代的教育ニーズ取組支援プログラム）。この事業によって開発された教育プログラムが、2007年より文学部と大学院人文学研究科の正式科目として採用された。とくに人文学研究科では、「地域歴史遺産活用研究」「地域歴史遺産活用演習」と「地域歴史遺産活用企画演習」の3科目が、研究科内の「選択必須共通科目」として位置づけられることになった。

地域連携センターでは2007年度より、これら3つの科目の授業内容と素材を提供している。3科目のうち、「地域歴史遺産活用研究」（学部講義名は地域歴史遺産保全活用基礎論A・B）は、地域歴史遺産の現状と課題を把握し、その活用のための基礎的知識と能力をつける入門講義である。「地域歴史遺産活用演習」は、地域歴史遺産の分類・整理・解読・展示内容などの実践的方法を学び取る専門的演習である。「地域歴史遺産活用企画演習」は、活用のための企画展示等を自治体関係者や地域住民と一緒に企画考案するような実践的演習である。

専門コースの学生・院生は、この3つの講義・演習をすべて履修し、専門外コースの学生・院生はまず「地域歴史遺産活用演習」を取得し、自分の興味にしたがって「地域歴史遺産活用企画演習」を履修する構成になっている。

以下、各授業・演習の中身の概要について記す。なお3つの講義のうち、「地域歴史遺産保全活用基礎論A」は、博物館科目の「博物館資料論」としても開講された。

1．地域歴史遺産活用研究（学部向けは「地域歴史遺産保全活用基礎論A」（前期／第1・2クォーター）・「地域歴史遺産保全活用基礎論B」（後期／第3・4クォーター）

本年度は新型コロナ対策のため、対面式での授業を開講することができなかった。本講義はリレー講義であり、かつ学外の講師も多いため、オンライン方式は難しく、オンデマンド方式とし、各講テキストを読み、それに対して小レポートを提出してもらう形で実施した。

基礎論Aは、『地域歴史遺産と現代社会』を毎講1章（コラムが付属する場合はそれも含む）ずつ読み進める形をとった、基礎論Bは、地域連携センターの年報『LINK』や関連資料から課題を設定した。また、A・Bともに期末レポートを課した。

こうした開講方法は初の試みであり、特に基礎論Aに関しては準備期間も少なく、試行錯誤しながらではあったが、概ね順調に実施することができた。

〈前期・第1・第2Q〉

① 5/8 奥村弘「歴史文化を活かした地域作りと

地域歴史遺産」(『地域歴史遺産と現代社会』神戸大学出版会、2018、以下同じ)

② 5/8　村井良介「地域歴史遺産という考え方」

③ 5/22　村井良介「地域史と自治体史編纂事業」・前田結城「大字誌の取り組み」

④ 5/29　木村修二 「古文書の可能性」・同「古文書を活用するまで」

⑤ 6/5　佐々木和子「『今』を遺す、『未来』へ伝える－災害アーカイブを手がかりに－」

⑥ 6/12　森岡秀人「埋蔵文化財と地域」

⑦ 6/19　黒田龍二「歴史的町並み保存の『真実性』について」・同「草津の近代遊郭建築寿楼」

⑧ 6/26　田中康弘「近代の歴史的建造物と地域」・村上裕道「ヘリテージマネージャーの育成と活動」

⑨ 7/3　大江篤「民俗文化と地域－但馬地域の事例を中心に」

⑩ 7/10　古市晃「地域博物館論」・坂江渉「小野市立好古館の地域展の取り組み」

⑪ 7/17　辻川敦「地域文書館の機能と役割」

⑫ 7/24　河野未央「大規模自然災害から地域資料を守り抜く－過去・現在、そして未来へ」・同「水濡れ資料の吸水乾燥方法」

⑬ 7/31　大国正美「『在野のアーキビスト論』と地域社会」

⑭ 8/7　市澤哲「連携事業の意味－成功例と失敗例から」・井上舞「地域連携活動の課題」・河島真「大学と地域－神戸工業専門学校化学工業科の設置」

〈後期・第３・第 4Q〉

① 10/1　オンラインによるガイダンス（古市）

② 10/8　屋宜明彦、市沢 , 哲、井上舞、木村修二、古市晃「歴史研究の隣人たち : 第 1 回 家じまいアドバイザー ® 屋宜明彦さん (インタビューシリーズ)」(『Link : 地域・大学・文化 : 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター年報』※以下『LINK』、11 号、2019)

③ 10/15 「特集にあたって」(編集委員会　文責：村井良介)・村井良介「地域の多元性とコミュニティ、市民社会―歴史研究の視点から―」・市沢哲 「「かつてないほどに哲学的な問いに直面する時代」のなかで」・コメント（岡田知弘・森元純一・今井邦彦）・座談会「“ 地域の再生 ” と歴史文化Ⅱ「文化財とはなにか」(以上、『LINK』7 号、2015)

④ 10/22　市沢哲「学問が展開する場について考える」・岡村勝行「現代考古学とコミュニケーション―日本版パブリック・アーケオロジーの模索―」(以上、『LINK』6 号、2014)

⑤ 10/29　遠州尋美「地域に伝えられる災害伝承をいかに受け止めるのか―“ 津波てんでんこ ” をめぐって―」(『LINK』6 号、2014)

⑥ 11/5　伊藤真之「科学コミュニケーションの現状と課題―実践者の立場から―」(『LINK』6 号、2014)

⑦ 11/12 「特集にあたって」(編集委員会　文責：木村修二)・森下徹「和泉市史における合同調査と地域叙述編―歴史・文化財の活用とその担い手をめぐって―」・西村慎太郎「地域史づくりの射程―原子力災害とダム建設・平成の市町村大合併―」(以上、『LINK』10 号、2018)

⑧ 11/19　前田結城「「棚原モデル」の展開と課題」・松岡弘之「学ぶ市史から調べる市史へ―『たどる調べる　尼崎の歴史』をめぐって―」(以上、『LINK』10 号、2018)・村田路人「「地域の歴史へのアプローチ」の多様性ー『LINK』第 10 号を読んで」(『LINK』11 号、2019)

⑨ 12/3 「特集にあたって」(編集委員会　文責：市沢哲)・水野章二「中世の環境と地域社会」(以上、『LINK』8 号、2016)

⑩ 12/17　有薗正一郎他編『歴史地理ハンドブック』(古今書院、2001 年) より、第 1 章「歴史地理学の方法と課題」・第 2 章 -2「絵図・地籍図」

⑪ 12/24　白水智『古文書はいかに歴史を描くのか―フィールドワークがつなぐ過去と未来

―』（NHK ブックス、2015 年）より、序章「知られざる歴史研究の舞台裏」・第 1 章「古文書とは何か」

⑫ 1/7　白水前掲書より、第 3 章「史料の調査と整理を考える」

⑬ 1/14　白水前掲書より、第 6 章「歴史史料と現代－散逸か保存か―」

⑭ 1/28　白水前掲書より、終章「長野県北部震災を経て」

⑮ 2/4　期末レポート

（文責・井上舞）

２．地域歴史遺産活用演習（学部授業名は「地域歴史遺産活用演習 A」、大学院文学研究科は「地域歴史遺産活用演習」、人文学研究科は「地域歴史遺産活用企画演習」）

例年、神戸大学大学院農学研究科・篠山フィールドステーションにおいて、地域歴史遺産保全活用演習 A（学部学生向け）、地域歴史遺産活用演習（大学院博士課程前期課程の大学院生向け）の授業を行っている。これは、主に近世・近代の古文書の整理・読解を通じて、地域歴史遺産を基礎とするまちづくり、村おこしについて考える授業で、市民も参加して毎年実施しているものである。

しかし、本年度はコロナ対策のため、合宿形式での開催はできず、学内で感染症対策をとりながらの実施となった。受講者はオンデマンド授業にて事前学習し、学内で 2 日間の演習に臨んだ。今回の演習では「篠山藩士鈴木次三郎家文書」の目録作成を行った。

また、2 月 2（火）・3 日（水）に、学内にて「地域歴史遺産保全活用専修 B」（学部向け）、「地域歴史遺産活用演習」（大学院前期博士課程向け）、「地域歴史遺産活用企画演習」（大学院後期課程向け）の授業を実施した。こちらも例年は三木市の玉置家住宅にて実施していたが、コロナ対策のため学内での実施となった。

（文責・市沢哲）

特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業を定着・普及させる活動

2010 ～ 2012 年度特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業で開発した、地域歴史遺産を活用できる人材育成プログラムを、普及・定着を図り、2013 年度より「まちづくり地域歴史遺産活用講座」とそのオプションプログラムである「古文書解読初級講座」を実施している。

1. まちづくり地域歴史遺産活用講座

本講座は、歴史文化を地域づくりに活用し、次世代に残してゆくために、その担い手となる人材の育成が重要という考えのもとに、年 2 回、大学と地域で開催してきたものである。

今年度は、2020 年 10 月 31 日・11 月 1 日に一般市民に向け開催した（主催：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター、共催：兵庫県教育委員会、後援：神戸市教育委員会、神戸市灘区）。例年神戸大学文学部において開催していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、Zoom を利用したオンライン開催とし、両日午後からの開催として講義数を減らした。参加者は 11 人であった。意見交換会では、資料保管の具体的な方法や史料の画像データ化に関する質問など、参加者の高い問題関心のもと活発な議論が行われた。またオンライン開催となったことで、一部音声が聞き取りにくいという問題が生じたものの、遠方に住居する方や、家庭の事情等で家を離れることが難しい方にも参加してもらいやすくなったという利点があった。

講座の次第は以下の通り。

10 月 31 日（土）

13:00 ～ 13:05　事務連絡

13:05 ～ 15:20　参加者自己紹介

13:20 ～ 14:30　奥村弘

「地域歴遺産とまちづくり」
14:35 ～ 15:20　井上舞
「地域歴史遺産活用事例の紹介」
15:30 ～ 16:15　古市晃
「地域の歴史の見方　古代」
16:20 ～ 17:05　市沢哲
「地域の歴史の見方　中世」
10 月 6 日（日）
13:00 ～ 13:05　事務連絡
13:05 ～ 14:05　木村修二
「歴史資料取り扱いの基礎Ⅰ」
14:10 ～ 15:10　松本充弘
「歴史資料取り扱いの基礎Ⅱ」
15:20 ～ 16:10　加藤明恵
「災害から地域資料を守る」
16:20 ～ 17:00　意見交換会
17:00 ～ 17:05　閉講挨拶（奥村弘）

（文責・加藤明恵）

2．古文書解読初級講座

9 月 6 日、13 日、20 日、27 日、計 4 回の日程で ZOOM を利用し、オンラインにて開催した。

これまでの「まちづくり地域歴史遺産活用講座」の受講生に案内し、23 名の参加者があった。講師は河島裕子氏（尼崎市立歴史博物館）が務め、「これまで無縁だったオンラインという手法で古文書を学ぶことができ、地元の歴史に触れることができたので大変満足だ」と概ね好評であった。

（文責・横山朋子）